

地区総体選手推戴式

6月3日（金）本校体育館で、地区総体の推戴式を行いました。その時の様子をお知らせ致します。

切磋琢磨

第3号
2016年
6月14日

あげな中学校

校長
福山 真



選手控え室の様子です。



いよいよ選手団の入場です。



全選手の入場が完了です



激励のアトラクションは野球部員です



選手控えでは
ドキドキの待ち時間でした

前日に「完全燃焼」をお願いしました。特に3年生にとっては、これから絶対に避けては通れない進路選択が待っています。そんな理由から、「完全燃焼」をお願いしました。特に3年生の皆さんは、地区総体では「完全燃焼」はできましたか？進路選択は待たなしです。



男子バスケットボール部による華麗なパフォーマンス

「ある少女の思い出」

俺が小学校5年生のとき、寝たきりで滅多に学校に来なかった女の子と同じクラスになったんだ。

その子、たまに学校に来たと思ったらすぐに早退しちゃうし、最初は「あいっだけズルいなあ・・・。」なんて思ってたよ。

んで、俺の家、その子の家から結構近かったから俺が連絡帳を届ける事になったんだ。女の子のお母さんから連絡帳を貰って、先生に届けて、またお母さんに渡して・・・。その繰り返し。

「なんで俺がこんな面倒臭い事しなくちゃいけないんだ！」

って、一人でブーたれてたのを良く覚えてる。

そんなある日、俺何となくその子の連絡帳の中を覗いてみたんだ。

ただの興味本位だったんだけど。

連絡帳にはその女の子のものらしい華奢な字で、ページ一杯にこう綴られてた。

『今日もずっと家で寝てました。』

早く学校に行きたいです。

今日は窓際から女の子達の笑い声が聞こえてきました。

学校に行けば、私も輪に入れるのかな・・・。』

ショックだった。

学校行かないのって楽な事だと思ってたから。

ハンデがある分、ひいき目にされて羨ましいって思ってたから。

でも彼女の文章には学校に行けない事の辛さ、普通にみんなと遊びたいって気持ちに溢れてて、なんだか俺、普通に毎日学校に通ってんのが申し訳なくなって。

だから、連絡帳にこっそり書き込んだんだ。

「いつでも、待ってるからな。体が良くなったら遊ぼうな！」って。

でも次の日の朝、その子の家に行ったらその子のお母さんに

「もう、連絡帳は届けなくていいの。」って言われた。

あまりにも突然だった。

俺その頃悪ガキで、頭もすげえ悪かったけど、その子のお母さんの言ってる意味は伝わったんだ。

「この子は天国に行ったんだ。」

もう一緒に遊ぶ事は出来ないんだ・・・。」

そんな事考えたら涙が溢れて、止まらなくて・・・。

ずうっと泣き続けてた俺に、その子のお母さんは連絡帳をくれたんだ。

せめて君だけは、学校にも行けなかったあの子を忘れないで欲しいって。

そんな俺ももうすぐ30になろうとしてる。

あの時の連絡帳は、引き出し下段の奥底にずっとしまったきりだ。

就職したり、結婚したり、子供が生まれたり・・・。

今まで、本当に色んな事があった。

時には泣きたい事、辛い事の連続で、いっそ自殺しまおうかなんて思った事もあった。

けど、そんな時はいつも引き出しを開けて、女の子の連絡帳を開くんだ。

そして、彼女が亡くなる直前に書かれた文章を読み返すんだ。

『ありがとう、いつかきっと、遊ぼうね。』

「心のチキンスープ」より